さくら国際高等学校「総合的な探究の時間」シラバス

【本校 通学型】

1. 教科名・科目名

総合的な探究の時間（キャリア教育・地域交流）

2. 教育課程上の位置づけ

本科目は、文部科学省「高等学校学習指導要領」に基づく必履修科目であり、全学年において年間を通じて実施される。

本校では、通学型生徒の社会的自立を支援する教育活動として「キャリア教育」と「地域交流」の二本柱を据え、地域資源との協働および職業的体験を通じて探究的な学びを展開する。生徒が地域社会の一員としての自覚を持ち、実体験を通じて課題解決力・自己肯定感の醸成・協働性・表現力・職業観を育むことを目的とする。

3. 単位数と実施形態

学年	単位数	実施形態
1 年次	1 単位	週 1 時間＋年数回の体験活動（キャリア教育）
2 年次	2 単位	週 1 時間＋地域連携・職業体験（両軸）
3 年次	2 単位	週 1 時間＋個人探究・進路準備（地域交流活動）

※通学型生徒の特性に応じて柔軟に活動を設計し、転入生には代替活動を含めた単位認定を行う。

4. 教科の目標（学習指導要領より）

・探究の過程を通じて、課題発見・解決に必要な資質・能力を育成する
・実社会との関わりから問いを見出し、情報収集・分析・表現を行う力を養う
・主体的・協働的に探究に取り組み、よりよい社会の実現に向けた態度を育む
・自己の進路や生き方について考え、将来に向けた意欲と展望を育てる

5. 本校における目標と目的

教育理念に基づく位置づけ
「自分という『個』を完成させ、社会的自立を果たす」という本校の理念に基づき、総合的な探究の時間では、生徒が自らの価値を認識し、社会の中で役割を果たす力を育むことを目指す。特にキャリア教育では、自己理解・職業理解・進路選択・社会的マナー・自己肯定感（セルフエフィカシー）の習得を通じて、将来に向けた行動力と責任感を育てる。

キャリア教育の目的

・自己の興味・関心・価値観を可視化し、進路選択に活かす
・自分の「働く意味（役割）」を探究し、将来像をデザインする力を育む
・職業人との対話や職場体験を通じて、働くこと（役割）の意味を実感する
・社会的マナー（挨拶・服装・言葉遣い・報連相など）を体得し、自律を促す

・進路ポートフォリオを作成し、自己の成長と選択を記録・振り返る
・履歴書・面接練習・志望理由書作成など、実践的な進路準備を行う
・地域の産業・福祉・教育分野との接点を通じて、社会の構造と自分の役割を理解する

地域交流の目的
・地域の人々との協働を通じて、実社会における人間関係の構築を学ぶ
・地域資源（自然・文化・地域の人々）との体験を通じて、地域共生と自立を育む
・異年齢・異文化との交流を通じて、共感力・配慮・柔軟性を身につける
・地域課題に触れることで、課題発見・解決の視点を養う
・地域に貢献する喜びを通じて、自己肯定感と社会的役割意識を高める

6. 年間活動計画

本校では、地域との継続的な連携により、通学型生徒が年間を通じて多様な体験活動に参加できる体制を整えています。活動は「キャリア教育」と「地域交流」の両面から設計されており、学年の発達段階に応じて目的・内容・役割が変化します。

活動名	対象学年	実施時期	主な連携先	活動のねらい
舌喰池整備	1 年	5 月	農水保全会	地域の自然環境保全活動に参加し、公共意識と協働性を育む
保育園遠足同行	3 年	5 月・10 月	西塩田保育園	幼児との関わりを通じて責任感・配慮・言語的表現力を育む
すぐり収穫・ジャム作り	全学年	6 月	地域農家	地元の農産物を通じて食育・地域産業理解・達成感を得る
小学校交流授業	2 年	秋～冬	塩田西小学校	教育活動の体験を通じて伝える力・計画力・協働性を育む
卒園制作	3 年	1 月	保育園	芸術的表現を通じて感謝・創造性・社会的責任を形にする
認知症サポーター講座	2 年	2 月	地域福祉団体	高齢者福祉の理解と共感力を育み、地域福祉への関心を高める
職業人インタビュー	2 年	通年	地元企業･団体	働く人の価値観に触れ、職業観・進路意識を広げる
進路ポートフォリオ作成	3 年	通年	担任・進路	自己理解と進路選択の記録を体系化し、進路実現に向けた行動を促す
環境美化活動	全学年	11 月	地域自治会	地域の公共空間を整える活動を通じて継続的な貢献意識を育む
地域イベント参加（祭り・敬老会など）	希望者	通年	地域団体	自発的な参加を通じて地域とのつながりと社会的役割意識を深める
職場見学・体験	2～3 年	夏・冬	地域事業所	実際の職場環境を体験し、働くことへの理解を深める
履歴書・面接練習	3 年	秋～冬	担任・進路	実践的な進路準備を通じて社会的マナーと表現力を育む
進路ポートフォリオ作成	3 年	通年	担任・進路	自己理解と進路選択の記録を体系化

				し、進路実現に向けた行動を促す
志望理由書・自己 PR 文作成	3 年	冬	進路	自分の言葉で将来像を語る力を育む
キャリア講話	全学年	年 2 回	キャリア	多様な職業・生き方に触れ、視野を広げる
地域産業調査	2 年	秋	地元企業	地域の産業構造を理解し、進路との接点を探る
各種ボランティア活動	全学年	年 1 回	キャリア	地域にあるボランティアに参加し、地域交流を促進する

※活動は年度によって変更・追加される場合があります。生徒の特性や地域の状況に応じて柔軟に設計します。

7. 探究テーマと学年別のねらい

学年ごとに探究テーマを設定し、発達段階に応じた学びの深まりを意図しています。各テーマは、キャリア教育・地域交流の両面から構成されており、個人の内面の成長と社会的実践を統合する設計です。

学年	探究テーマ	主なねらい
1 年	「みつめる」	自分自身と地域を見つめ、関心を広げる。 自分の価値観や興味を言語化する力を育む。 地域の人々や自然との出会いを通じて、自己と社会のつながりを実感する。
2 年	「ひろげる」	興味関心を深め、協働的な活動を通じて視野を広げる。 他者との関係性の中で自分の役割を理解し、職業観や社会的責任について考える。 地域課題や福祉・教育分野との接点を通じて、探究の幅を広げる。
3 年	「めざす」	自ら課題を設定し、実践的な探究を通じて社会的責任を果たす。 将来への展望を持ち、進路実現に向けた行動力を育む。 地域への貢献と自己の成長を統合し、「自分らしい社会参加」の形を模索する。

8. 指導体制と教職員の姿勢

・活動の目的・意義を明確にし、生徒の模範となる姿勢を示す
・地域との積極的な関わりを通じて教育活動への理解を促進
・生徒の特性に応じた役割設計と丁寧な指導を行う
・活動前後の振り返りを重視し、内省と成長を支援する
・安全管理・衛生指導・緊急対応体制を整備し、安心して活動できる環境を提供する
・キャリアコンサルタント（国家資格）の視点からキャリア教育を展開する
・教職員は「伴走者」として、生徒の主体性を尊重しながら適切な支援を行う

9. 指導方法

事前指導：活動内容・目的・姿勢・安全面の確認、役割分担の明確化。活動の背景や地域の歴史・文化についても学ぶ。

活動中　：協働・責任・配慮を重視した実践的指導。教員は観察・記録・声かけを通じて生徒の成長を支援する。

事後指導：振り返りシートによる内省、活動の意味づけ、次への展望。個人・グループでの共有を通じて学びを深める。

記録共有：活動記録・写真・生徒の発表などを校内外に共有し、学びの可視化を図る。保護者や地域への報告。

令和7年度 総合的な探究の時間「地域交流」 指導計画

1.総合的な探究の時間について

(1) 目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおりに育成することを目指す。

① 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
② 実社会や実生活と自己の関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようになる。
③ 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

(2)単位数

高等学校学習指導要領より
総合的な探究の時間は、全て学校で教育課程上必置とされるものであり、
その単位数については3～6単位を標準とされている。

本校の教育課程表の基本モデルは
1年次:1単位 / 2年次:2単位 / 3年次:2単位 【計5単位】にて設定
※転校生については必要に応じた単位数にて設定

2. 本校における総合的な探究の時間について

(1) 位置づけ

本校では総合的な探究の時間として「地域交流」を位置づける。

(2) 本校の実態

本校の生徒は、他者との関わりや集団での活動に課題や苦手意識を抱えている生徒が多い。
その実態は、これまでの過程において自己を正しく理解する機会を持てずにいたため、他者との関わり方や問題を解決する方法、意思表示の仕方を「わからない」「知らない」ことにある。
その結果、集団にうまくなじめず、自己肯定感が育まれていない。

(3)「地域交流」の目的

本校の教育目標達成に向け、「地域交流」については以下の目的とする。

本校の目標	自分という「個」を完成させ、社会的自立を果たす

〇目的

さまざまな地域交流の中で、自分が必要とされること、役割を責任をもって果たすことで自己肯定感を養う。
人との関わり方、TPOに合わせた適切な態度や言動、問題解決の方法を学ぶことで社会性を育み
社会適応能力を伸ばす。

(4) 観点

・自分にできることは何か
・苦手なことをやらなければならないときに、どうすればよいか
・「人の役の立つ」ってどんなことか
・何かをやり遂げる達成感とはどんな気持ちか
・人とまろやかな人間関係を築くにはどうしたら良いか

（5）各学年の目標

1年生	「みつめる」 さまざまな活動に参加することで経験を増やし、心の機微をとらえる。 活動の中で役割を担い、個々の能力を見出すきっかけを持つ。 <ポイント>「経験」、「感情の動き・表現」、「自分の能力に気づく」
2年生	「ひろげる」 活動を通して自分の適性や興味を知り、自己の能力を伸ばす。 他者と協働することで、他者に目を向け、新たな人間関係の構築を目指す。 <ポイント>「興味・関心を持つ」、「能力の向上」、「人間関係の広がり」
3年生	「めざす」 自ら積極的に活動し、周囲の状況に合わせながら自分のやるべきことを思考する。 粘り強く最後まで努力する勇気と姿勢を持つことで、自己の課題と折り合いを つける方法を知る。 <ポイント>「TPOに合わせた行動」、「周囲との協調」、「自己肯定感」

（6）教職員の姿勢

・「地域交流」の目的を理解し、活動への意欲、活動中の姿勢はすべて生徒の模範となるよう努める。
・自ら地域の方々と積極的な関わりを持つことが、本校の教育活動に対する理解につながる。
教職員の姿勢が、本校および本校生徒の印象につながる自覚を持つ。
・個々の生徒が活動目標を達成できるよう、生徒の状況や特性に沿った役割を思考する。
また、与えられた役割にきちんと取り組めるよう、協働しながら明確な手順や方法を伝える。

3. 年間活動計画

〇地域交流（総合の探究の単位に含まれる活動）

前期	後期
【1】舌喰池整備（5月9日） 【3】保育園遠足（5月20日） 【全・集】すぐり収穫作業（6月3・4・6・7・日） ※集S…3日　保育園・・・5日　小学校…○日＊未調 【2】小学校交流（10月～12月）＊未調整 ↑日程が調整できれば前期に行っても？	【3】保育園遠足（10月15日） 【全】環境美化（11月16日）＊未調整 【2】小学校交流（10月～12月）＊未調整 【2】認知症サポーター講座（2月上旬）＊未調整 【3】卒園制作（1月下旬）＊未調整 【1】しょう油絞り（2月上旬）＊仕込み4月18日

〇有志活動　ボランティア活動としての位置づけ ＊調査書（ボランティア項目）に記載

前期	後期
岳の幟（7月14日） 西塩田地区夏祭り（8月3日） 手塚地区敬老会_プレゼント作成（9月上旬） 保育園運動会ゲート作成（9月上旬～） ※実施日10月上旬	とっこ館秋祭り（10月26日） 別所温泉駅清掃※集S（昨年は第三期スクーリング）

※岳の幟は、近年の活動状況から参加を見送る可能性が高い。
※今年度、西塩田地域の夏祭り参加の要請があり、有志活動として参加をする可能性がある。
※保育園運動会ゲート作成は、夏休み前に有志を募り、9月からゲート作成を開始する。
※敬老会のプレゼント作成は昨年度に引き続き全校での活動とする。

〇年間を通した各学年での活動（LHR等の時間に活動）

1年生…花壇整備、金魚管理、ひまわり、しょう油管理
2年生…さくら農園

4. 活動の内容、分掌

活動項目	主な内容	担当
保育園	【3年】保育園遠足　…保育園の遠足引率[5月20日/10月15日] 【3年】卒園制作　…時計制作補助[1月下旬]※卒園・入園式看板製作 【有志】保育園運動会　…運動会ゲートの作成[9月～10月上旬]	3学年 3学年 茅野・田中
すぐり	【全員】すぐり収穫、へた取り、事前学習[6月2・3・5・6日] 【集S】すぐり収穫、へた取り、事前学習、ジャム作り[6月3日] 【2年】小学校との交流…ジャムのプレゼント[＊日程調整]	2学年 井出・茅野 2学年
学校周辺整備	【全員】環境美化活動　…地域のごみ拾い[11月16日] 【1年】舌喰池整美　…農水保全会との連携[5月9日] 【1年】花壇管理　…地域の方の目に触れるもの[通年] 【2年】さくら農園　…地域の方の目に触れるもの[通年]	佐藤 1学年 1学年 2学年
地域との連携活動	【有志】西塩田地区夏祭り　…行事への参加[8月3日] 【有志】敬老会　…地区の敬老会に向けプレゼント制作[9月上旬 【有志】とっこ館秋祭り　…行事への参加、煌桜祭周知[10月26日]	松澤・児玉 井出・伊藤 児玉・奥山
しょう油	【1年】しょう油の管理[通年] 【1・2年】しょう油絞り[2月上旬]	1学年 1学年
認知症講座	【2年】認知症サポーター講座1月～2月]	吉岡

5. 事前指導と振り返りシート

（1）事前指導　　以下の点を指導する

活動内容 / 生徒が取り組む具体的な作業 / 活動に向き合う姿勢や態度

（2）振り返りシート　以下の点を取り入れたものとする

取り組む姿勢を反省する項目 / 活動を中の心の機微などを言葉にする項目 / 今後の成長を促す項目

※振り返りシートは、「総合的な探究の時間」の添削指導に該当する。

※振り返りシートは、全体活動は担任が、有志活動は担当職員がコメントを記入し、担任より返却する
返却後は「地域交流ファイル」にまとめるよう指導する。

対象活動：保育園遠足、すぐり、小学校交流、しょう油絞り

6. 評価と単位認定について

「総合的な探究の時間」の評価は、年度末に各担任が評価し、単位認定を行う。

（1）基準

【通学型】評価対象となる活動に、年間1年生は1回以上、2, 3年生は2回以上出席して →認定

【集中S】すぐり活動に出席している※転入生は清掃活動などで代替　→認定

※生徒状況に応じて、参加が著しく困難な場合は対応を検討する。

（2）通学型の評価対象となる活動

・保育園遠足（3年生）
・舌喰池整備（1年生）
・すぐり収穫、へた取り活動（全学年）
・小学生との交流（2年生）
・環境美化（全学年）
・卒園制作（3年生）
・認知症サポーター講座（2年生）
・しょう油絞り（1年生）

7. 活動実施までの流れ

（1）実施要項の作成　　【担当】→【教務会】→【校長・全体共有（チャット）】

活動実施に当たり、「実施要項」及び活動に必要な書類を作成する。　　※活動の1ヵ月前を目安

作成した要項について〔教務〕→〔2025〕→〔地域交流（総合）〕に保存

〇実施要項（教職員用）

・昨年度の内容を確認し、変更点や申し送り事項を考慮した内容で作成する。

※昨年度の要項：[教務]→[2024]→[地域交流]

※全体掌握→担当職員

※渉外等、地域の方々との連絡は担当職員が行う。

〇生徒発信文書

・目的、持ち物、日程、心構え等を盛り込んだものとする。

・事前学習を兼ねるものもOK

〇教務会、学務への発信　　※活動日の2～3週間前を目安

・学務職員の要請が必要な場合や大きな予算が必要となる活動は代表者会の承認を得る。

・実施要項及び、生徒発信文書は教務会で共有し、内容の調整を図る。

（2）活動の運営

活動が円滑に進むよう、常に全体の状況を把握する。

（3）総括

・活動後は教務会で他の職員からの意見（良かった点、改善点、次年度への申し送り等）を集約し、

要項に赤字で記入する。

・振り返りシートは可能な限り速やかにチェックし、教職員に回覧する。（その後生徒へ返却）＊活動終了後1カ月以内を目安

8. 予算等

・各活動の予算

活動	予算	備考
すぐり	100円／人	収穫用グローブ、試食用食材費等
しょう油	800円／人	もろみ代、瓶代、講師代、道具使用料、試食用食材費等
農園（2年）	400円／人	さくら農園運営費
その他	要相談	材料費、ご褒美等

・地域交流ファイル　　138円／人

9. 主な連携先など

西塩田保育園

塩田西小学校

農水保全会

手塚自治会

しょう油講師

卒園制作講師

すぐり管理

手塚敬老会

10.備考・検討

・3年生対象の保育園遠足は前期（半数）・後期（半数）に分かれ実施。

・選択Ⅰボランティア内で夏祭り、とっこ館秋祭り、保育園運動会、敬老会等の準備も検討